

第78回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録(案)

1. 日 時：2025年3月18日(火) 13時30分～14時30分

2. 場 所：一般社団法人 日本電気協会 4階 A会議室 (Web併用会議)

3. 出席者：(敬称略, 順不同)

出席委員：山本議長(日本原子力学会 標準委員会 委員長), 笠原議長(日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長), 阿部(日本電気協会 原子力規格委員会 委員長), 北浦(日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事), 高屋(日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長), 西山(日本原子力学会 標準委員会 副委員長), 毎熊(日本原子力学会 標準委員会 幹事), 宮野(日本原子力学会 標準委員会 フェロー委員), 吉田(日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長), 齊藤(日本電気協会 原子力規格委員会 幹事)

常時参加者：岩浅(資源エネルギー庁), 富田(電気事業連合会 部長), 瀧口(日本建築学会 原子力建築運営委員会 主査), 松岡(日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局), 大沼(日本原子力学会 事務局), 奥村(日本電気協会), 高柳(日本電気協会), 中山(日本電気協会), 浅見(日本電気協会)

オブザーバ：増川(火力原子力発電技術協会), 島田(日本電機工業会), 天内(日本電機工業会), 山中(原子力学会 標準委員会) 松澤(日本電気協会 原子力規格委員会), 岡田(電気事業連合会), 大鋸谷(電気事業連合会)

説明者：なし

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局：原, 景浦, 美濃, 梅津, 上野, 川口, 田邊

(計32名)

4. 配付資料：別紙参照

5. 議 事

原子力関連学協会規格類協議会 事務局から, 本協議会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認した。その後事務局より本日の会議の議長は山本議長となるとの紹介があった。

5.1 出席者確認, 代理出席者, 常時参加者及びオブザーバの紹介

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より, 参考資料-1に基づき, 委員変更の紹介があった。

出席委員については12人中10名参加との紹介の後, 常時参加者, オブザーバの紹介があり, オブザーバについては原子力規格類学協会規格類協議会運営要綱第5条(協議会の開催)第3項に基づき議長の承認を得た。

5.2 前回議事録確認

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より, 資料 No.78-1に基づき, 前回議事録(案)につい

て紹介があり、編集上の修正については議長が確認することにより、正式議事録にすることについて、運営要綱第7条（決議）に基づき決議の結果、特にコメントは無く、承認された。

5.3 審議事項

(1) 原子力関連学協会規格類協議会の課題案について

山本議長より、原子力関連学協会規格類協議会の課題案について説明があった。

(主な説明)

- ✓ 今回は新規の案件は特になし。

(主なご意見・コメント)

- ・ 技術評価についての議論は収束したと認識している。6年前に策定したステートメントについて見直しの方が良いのではないかという話があり、今後、見直しの議論があるかもしれないことをご承知おき願いたい。

5.4 報告事項

(1) 電気事業連合会

1) 規格策定段階における原子力規制庁と学協会の積極的な議論推進に向けた取り組みについて

電気事業連合会 富田部長より、資料No.78-3-1-1に基づき、技術評価を希望する学協会規格について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 表中から現在原子力規制庁が参加している会議体の欄から△の表記が消えているが、これは技術評価に関する希望のみのことを言っているのか。現在、参加されている会議体には継続的に参加されると理解して良いか。
- そのとおりであり、技術評価の表記を追記する。
- ・ 技術評価が予定される規格には策定段階から参加いただきたいというのが、発端であったことを確認させていただく。
- そのつもりであり、今後もその方向で話を進めて行きたい。進展については報告する。

(2) 各学協会からの報告

1) 日本電気協会

a. 技術評価の状況について（報告）

日本電気協会事務局より、資料 No.78-3-2-1-1 に基づき、技術評価の状況について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 技術評価書の案が出来ており、追加の説明があると聞いているが、規格の策定段階から原子力規制庁が参加していたら、意見の不一致はなかったのか。
- 技術評価の進捗によって更に多岐にわたる質問が行われることもあるが、疑問点が明確になっていれば議論できたと考える。

b. 第9回シンポジウム実施結果について（報告）

日本電気協会事務局より、資料 No.78-3-2-1-2 に基づき、第9回シンポジウム実施結果について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし

2) 原子力学会

原子力学会 標準委員会の企画セッションについて、概要報告があった。

タイトル：規格基準類策定に係わる課題と今後の展望

日時：3月12日 13:00～14:30

内容：

- ・ 標準委員会活動の現状 毎熊幹事
- ・ 標準委員会活動の課題 山本委員長
- ・ 総合討論（ステークホルダからの意見を踏まえて）（60分）

原子力規制庁 神谷技術基盤課長，機械学会 笠原委員長，電気協会 阿部委員長，
電事連 富田部長

5.5 その他

(1) 規格類協議会幹事会

原子力関連学協会規格類協議会事務局より、資料 No.78-4-1 に基づき、規格類協議会幹事会議事録について紹介があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 我が国では再稼働，長期運転に集中して技術評価などに傾注してきた。一方，世界的には次世代革新炉が進んでいる。次世代革新炉は新技術にチャレンジすることなので，若い世代にも魅力的であると感じる。我が国では目の前のことに集中してきたため，新技術に傾注しにくかった。今後の日本の産業競争力，先端技術での世界競争力は重要であり，学協会としても重視するべきであるものとして補足する。

(2) 検査制度に関する意見交換会の状況について

日本電気協会事務局より、資料 No.78-4-2（第76回から変更なし）を提示し、交換会が無かったことを報告した。

(主なご意見・コメント)

- ・ 次回開催についての情報はるか。
 - 電事連から補足する。現在、4月18日 AMで調整中である。案件としては、エンジニアリング検査について、今年度実施した関西電力の美浜と高浜の振り返りと今年の実施プラントである。それから安全実績指標について、LCO逸脱件数が関西電力のプラントで4件になって白判定がなされた件、柏崎で衛星携帯電話関連のLCO逸脱が4件発生したことの扱いについて提案がある。後は検査ガイドの改正と、CNOとの意見交換会でも話題となったオンラインメンテナンスについて伊方の3号機で試運用を始めることについて、この会合で議題の一つとして進めてゆくと聞いている。

(3) 次回原子力関連学協会規格類協議会開催について

次回規格類協議会は、幹事会を5月19日(月)13時30分から15時30分、本会議を6月10日(火)13時30分から15時30分を開催予定としているので、予定の確保をお願いする。

以上

第 78 回原子力関連学協会規格類協議会配付資料

資料 No.78-1	第 77 回原子力関連学協会規格類協議会 議事録 (案)
資料 No.78-3-1-1	規格策定段階における NRA と学協会の積極的な議論推進に向けた取り組みについて
資料 No.78-3-2-1-1	JEAC4201 追補版 JEAC4206 追補版 技術評価実施状況について
資料 No.78-3-2-1-2	第 9 回 日本電気協会 原子力規格委員会 シンポジウムー原子力発電所 60 年超運転に向けての規格整備ー結果報告
資料 No.78-4-1	第 78 回原子力関連学協会規格類協議会 幹事会 議事概要 (2025 年 2 月 20 日)
資料 No.78-4-2	検査制度に関する意見交換会合(第 15 回更新) 参考(第 76 回から変更なし)
参考資料-1	原子力関連学協会規格類協議会 名簿
参考資料-2	原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱
参考資料-3	日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格
参考資料-4	日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況
参考資料-5	日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格
参考資料-6	原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化 ～事業者の自主的安全性向上の取り組みを前提とする検査制度見直しを踏まえて～ (平成 30 年 3 月 8 日)
参考資料-7	民間規格の技術評価の実施に係る計画 (令和 6, 7 年度) (2024 年 7 月 10 日 第 19 回原子力規制委員会資料 2)